

参加した コース	ふじのくに地域探究コース (静岡と世界を繋ぐマイプロジェクトコース)			訪問国	オーストラリア
学校名	静岡県立駿河総合高等学校	氏名	本杉璃乃	学年	2 年

1 留学に行こうと思った経緯

静岡県が抱える人口減少問題に関心がありました。人口減少の大きな原因は出生数の減少による自然減と言われているため、静岡県外の方が静岡県に移住することが人口減少解消の鍵になると思い、どうしたら静岡がもっと魅力ある街になるだろうと考えました。留学先はオーストラリアのメルボルンに決めました。メルボルンは世界で最も住みやすい街として昨年は4位、一昨年は3位、2010年から2017年までは7年連続で1位を勝ち取っている街です。歴史的な建物が多く存在し、それをリノベーションして、より多くの人が利用できるよう活用しています。歴史的建造物や趣ある建物が多くある静岡県にも、メルボルンが行っている街づくりの工夫を生かせることがあるのではないかと、それを現地で調査したいと思いました。

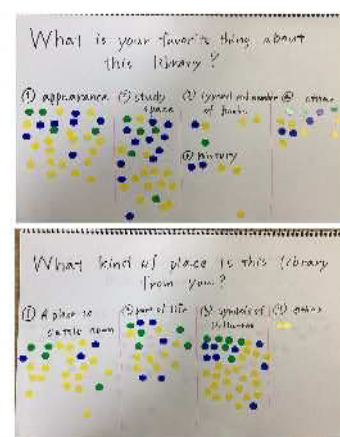


2 出発前の活動

現地での探究活動をより有意義なものにするため、出発前には静岡市の総合政策局・企画課に伺い、静岡の人口推移や行っている取り組み、静岡をどんな街にしたいのかについてお話を聞きました。静岡市は様々な子育て支援やスポーツ交流などの取り組みを行っていますが、それでも人口減少問題を解決するのは難しいと分かりました。

3 現地での活動

200年以上の歴史があるビクトリア州立図書館で、スケッチブックを使って100人近くの人に街頭インタビューを行いました。また、リノベーションされたホテルのスタッフの方やメルボルン観光案内所の方にリノベーションや街の魅力についてのお話を伺いました。ビクトリア州立図書館での街頭インタビューの結果からわかったことは、図書館の存在を聞いたところ、世界で最も美しい図書館のひとつと言われ、200年近くの歴史もある図書館なので、メルボルンのシンボルと答えたのが一番多かったです。



一方で、学習スペースが充実しているところが好きという意見も多く、実用的な面でも活躍している図書館でした。観光客や地域の人のどちらかではなく、両方が満足に利用できる図書館となっていました。

4 アンバサダー活動

アンバサダー活動では、空手と茶道を行いました。現地の空手道場に自分で電話をして、習っている空手を一緒に行いました。英語で電話をかけるのは初めてだったので緊張しましたが、無事に訪問できました。日本のスポーツを海外で触れられたのは貴重な体験で、空手を通して交流することができました。

茶道については、茶華道部の経験を生かし、お茶と和菓子をホストファミリーに振る舞いました。美味しいと喜んで食べてくれたので嬉しかったです。また、折り紙の折り方を教えたりして、日本文化を紹介しました。

5 探究活動の成果

メルボルンでは、歴史ある古い建物の良さを生かし、風情ある建物が多く、それが歴史や文化を広めることにも繋がっているなと思いました。レトロな雰囲気を感じたいという思いと近代化によって現代の人の要望に合った街づくりを行うには、メルボルンが行っているようなリノベーションが効果的なのだと感じました。メルボルンは都会でありながらもものんびり豊かな雰囲気が確かにあります。バランスをとりながら、様々な建物が共存することで、いつどんな人が来ても飽きることのない街になっており、それが住みやすい街へと繋がっているのだと感じました。



6 留学を終えて

私にとって、メルボルンで過ごしたことが、自分の強みや自信になりました。1人で飛行機に乗ったり、100人以上に英語でインタビューしたり、海外で家族と離れて生活をしたりしたことは、以前の私では考えられないことです。そのため、前よりも難しいこと、新しいことに1歩踏み出すのが楽になりました。また、将来について大学で具体的に何を学びたいか、前向きに考えるようになりました。

現在、留学で学んだことをきっかけに、清水駅前銀座商店街のシャッターに高校生や親子を交えて絵を描くイベントを企画しています。もの寂しく閉ざされたシャッターに色を付けることで、商店街がカラフルで親しみやすい場所になると同時に、イベント開催によって人が商店街に足を運ぶきっかけにもなります。留学の経験を活かして今後も、このような人が集まるような場所やイベントを増やして、静岡を盛り上げて行きたいです。

